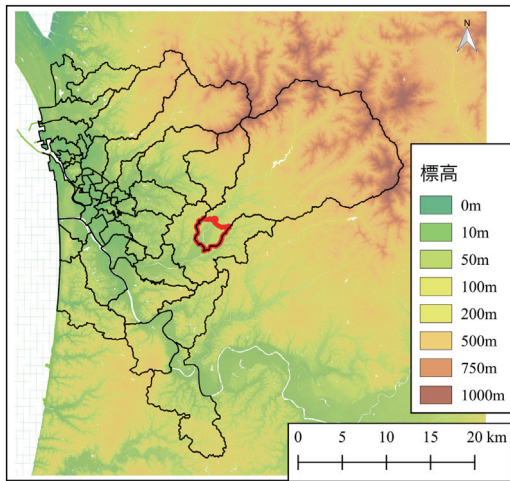


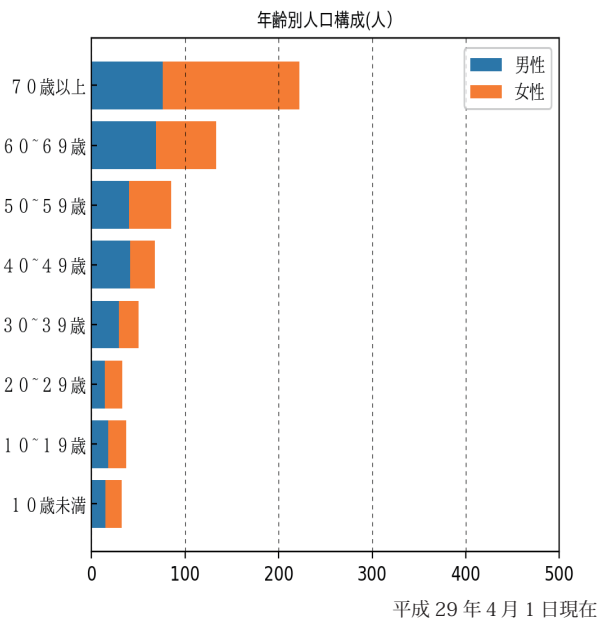
42：河辺小学校（旧赤平小学校）区

位置図



1 居住者の現況

人口	660 人
世帯数	283 世帯
65 歳以上人口	293 人
10 歳未満人口	32 人



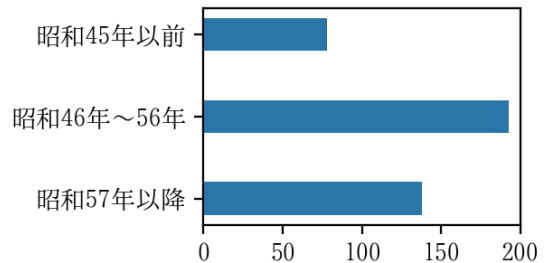
2 建物に関する指標

■ 構造別建物棟数(棟)

	棟
木造建物	409
非木造建物	30

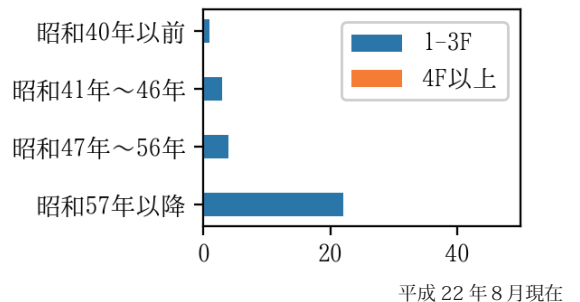
■ 建築年代別木造建物棟数(棟)

	棟
昭和57年以降	138
昭和46年～56年	193
昭和45年以前	78



■ 建築年代別非木造建物棟数(棟)

	1-3F	4F以上
昭和57年以降	22	0
昭和47年～56年	4	0
昭和41年～46年	3	0
昭和40年以前	1	0



自然的・社会的基本指標

河辺地区の中央部に位置し、旧赤平小学校を中心に半径約1kmほどの地域である。学校区は岩見川の低地部とその兩岸の山地部からなり、山地部との境界部では土砂災害の危険性が認められる箇所が分布している。人口は660人程度と少なく、構成としても高齢者層ほど比率が高い。65歳以上が44%を占める。建築物の多くは昭和46年以降に建設された木造の建築物であり、非木造建築物は少ない。昭和57年以降の建築物は全体の36%である。

3 自然災害に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 洪水

指定河川	岩見川		
浸水面積 (%)	5.8		
最大浸水深 (m)	ランク 4		

■ 土砂災害

* 土砂災害危険箇所

種別	箇所数	主な指定箇所
急傾斜地崩壊危険箇所	4	山根、曾場、曾場台、山根
土石流危険渓流	7	山根沢、大沢、仏沢 他
地すべり危険箇所	0	該当箇所なし
なだれ危険箇所	3	(大沢)、(高岡) 他

* 土砂災害警戒区域

種別	箇所数	主な指定箇所
土砂災害警戒区域	0	該当箇所なし
うち土砂災害特別警戒区域をふくむもの		

■ 地震および津波

* 地震 (どこにでも起こりうる直下の地震: M6.9)

平均震度 (計測震度)	震度 6 弱 (5.70)	
震度 6 強以上となる面積 (%)	1	
液状化危険度ランク	3	
建物全壊率 (%)	1.1	

* 津波 (秋田県沖の地震で A,B,C 領域が運動した場合)

浸水面積 (%)	(該当なし)	
最大浸水深 (m)	(該当なし)	

4 災害時要配慮者に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 要支援者関連施設 (収容施設のみ)

種別	施設数
高齢者支援	0
婦人幼児支援	0
障がい者等支援	2

■ 幼稚園・保育所等

種別	施設数
保育所等	0
こども園	0
幼稚園	0

■ 学童支援施設

種別	施設数
児童館等	0

■ 学校等

種別	施設数
小学校	0
中学校	0
高等学校	0
大学・短大・高専	0
養護学校等	0

5 防火・防災施設に関する指標 (平成 29 年 3 月現在)

■ 消防関連施設

消火栓数 (箇所)	39
防火水槽 (箇所)	11
消防車台数 (台)	10
消防ポンプ数 (台)	11
消防団員数 (人)	102

■ 避難所/避難場所 (別表参照)

災害種別	施設数
洪水	2
土砂災害	2
地震	2
津波	0
福祉避難所	0
津波避難ビル	0
津波警報サイレン	0

■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	秋田南消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院・医院数 (歯科を除く)	0
最寄りの救急告示病院	秋田赤十字病院
自主防災組織数	4

自然災害時の危険要素

岩見川の氾濫により、学校区の南部では左右岸、北部では左岸の平地に浸水が及ぶものの、集落への影響は少ないと想定されている。

土砂災害の危険性は山地と平地の境界部に認められているが、警戒区域等に指定された箇所は現時点ではない。

地震動としてはほぼ全域同様の揺れやすさとなっている。平地部では一部で液状化の危険性が高い。津波による浸水の可能性は低いと想定されている。

防災上の課題と対策

赤平小学校区は、岩見川中流域の低平地とその左・右岸の段丘状の高台に散在する集落からなる。

土砂災害並びになだれ危険箇所は岩見川右岸の集落に多い。

建物の多くは旧耐震建築物である。医療施設がないことから、日常から緊急搬送手段の確保が重要である。人口流動性が低い地域であり地域内の協同・相互補助の意識は高いと見られる。

地域特性として隣接する旧河辺小学校区との関係が深いことから、防災上の諸活動においても連携を深め、一体となった取り組みが望まれる。

指定避難所および緊急時一時避難場所は、岩見川右岸の旧赤平小学校の 1 施設のみである。洪水時などでは左岸域からの避難には困難が伴うと考えられることから、集落を単

位とした地区の避難計画を検討し、訓練などを通してその実効性を確認するなどの事前の防災活動が望まれる。



■ 避難所・避難場所

施設	指定避難所	緊急避難場所					収容人員
		災害の種類（○のみ利用可）					
		洪水	がけ崩れ / 土石流	地震	津波	大規模火災	
旧赤平小学校グラウンド	x	○	○	○	x	x	6,115人
旧赤平小学校（体育館）	○	○	○	○	x	x	197人

福祉避難所

施設	所在地	電話番号
(該当なし)		

津波避難ビル

施設	所在地	利用可能範囲	収容人員
(該当なし)			

津波警報サイレン

施設	所在地
(該当なし)	

